

町の子どもたちの学力・学習状況について

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果から

平成29年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の松田町立小・中学校の調査結果の分析をまとめました。同調査は、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、国語、算数・数学の2教科で実施されました。出題範囲は前学年までの指導事項を原則とし、主として知識に関する(A)問題と、主として活用に関する(B)問題が出題されました。また、生活習慣や学習意欲、家庭学習などに関する質問紙調査も行われました。

【問い合わせ】教育課 学校教育係 ☎(83)7023

学力・学習状況調査

小学校6年生

国語A・B、算数Aは県公立学校の平均正答率と同程度(±5%以内)でした。算数Bは県公立学校の平均正答率よりやや低いという結果でした。

国語A 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことや書くことはおおむね良好です。一方、手紙に書かれた内容を説明したり、手紙の構成を理解して、後付けを書いたりすることについて課題があります。
国語B 字数制限などの条件に合わせながら、理由を明確にして、自分の考えをまとめながら書くことは良好です。国語においては、粘り強く問題に取り組んでいる傾向が見られます。一方、目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことには課題があります。
算数A 乗法(掛け算)で表すことができる2つの数量関

係を理解することや、商を分数で表すことは良好です。一方で、加法(足し算)と乗法(掛け算)の混合した整数と小数の計算については課題があります。県公立学校の平均より無解答率が高い傾向にあり、粘り強く問題に取り組むことに課題があります。

算数B 問題に示された条件を基にして、式を立てることは良好です。一方で、仮の平均の考え方を活用して平均を求めることや、基準量と割合を基にして比較量を求めることに課題があります。

中学校3年生

全教科において、県公立学校の平均正答率と同程度(±5%以内)でした。

国語A 文脈に即して漢字を正しく読むことや書くことについて、行書の特徴を理解することは良好です。また、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉えることについても良好です。一方、事象や行為などを表す適切な語句を使うことや文脈の中で適切な

語句を選択することについて課題があります。

国語B 場面の展開や登場人物などの描写について内容を読み取ることや、目的に応じて必要な情報を読み取ることは良好です。一方、問われた条件を満たしながら根拠を明確にして自分の考えを書くことについて課題があります。

数学A 具体的場面における正負の数の表し方や多角形の内角の和については良好です。また、命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることもについても良好です。一方、具体的な場面で一元一次方程式を作ることについて課題があります。

数学B ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉えることは良好です。一方、表やグラフなどを用いながら数学的に説明することについて課題があります。設問によっては、無解答率が高い問題があり、粘り強く問題解決に取り組むことについて、さらに継続した指導が必要で

質問紙調査

(全国や県の割合との比較)

小学校

生活習慣

生活習慣において「早ね・早おき・朝ご飯・朝うんち」を推進していますが、毎日同じ時刻に寝ている割合と同じ時刻に起きている割合は全国や県に比べて高く、生活リズムがとて安定していることが伺えます。

コミュニケーション能力

友達の話や意見を最後まで聞くことができる割合は、全国や県より高いものの、友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な割合、また友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つ割合は全国や県よりも低い傾向にあります。

家庭学習・家庭生活

自分で計画して家庭学習をしている割合が全国や県よりも高く、家庭での学習が習慣化されつつあることが伺えます。また、1日あたり1時間以上学習している割合も全国や県より高い傾向です。携帯電話やスマートフォンでの長時間使用(1日1時間以上)については、全国や県よりも割合が高くなっています。携帯電話やスマートフォンを持って

いるが、使い方について、家族との約束がないという割合が1割を超えており、今後も学校と家庭で連携しながら改善していく取り組みが必要です。
自己肯定感

将来の夢や目標をもっている割合や難しいことでも失敗を恐れずに挑戦するという割合が全国や県よりも高い傾向です。また、人の役に立つ人間になりたいという割合も高いです。

しかし、自分によいところがあると考える割合が全国や県より若干低い傾向にあります。今後、児童の自己肯定感を一層高めていく取り組みが必要で

中学校

生活習慣

生活習慣に関して、同じ時刻に起きている割合はおおむね全国や県と同じ傾向です。しかし、毎日同じ時刻に寝ている割合が低く、朝食を全く食べていないという割合は5%を超えています。睡眠時間と食欲の関連性も考えられますので、この2点については改善していく必要があります。

コミュニケーション能力

友達の話や意見を最後まで聴くことができる割合や友達との考えを受け止めて自分の考

えを持つことができる割合は、ほぼ全国や県と同程度であるものの、友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒の割合はあまり高くない傾向にあります。

家庭学習・家庭生活

家庭で学校の授業の予習・復習を行っている割合や1日あたり1時間以上学習している割合が全国や県よりも低い傾向にあります。家庭生活において、テレビを見ている時間(1時間以上)については、全国や県の割合より低い傾向にあり、昨年度から改善されてきています。

しかし、ゲームの時間(1時間以上)や、携帯電話やスマートフォンでの使用時間(1時間以上)の割合は、昨年度から依然として全国や県よりも高い傾向にあります。

自己肯定感

自分によいところがあると考える割合や将来の夢や目標を持つているという割合が全国や県よりも低い傾向にあります。また、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦するという割合も低い傾向です。授業や行事などで、最後までやり遂げた達成感を感じるような活動を充実させ、生徒の自己肯定感を高めていく必要があると考

◎各学校においても調査結果について分析し、課題点を見つけ、その克服に向けた取り組みを教師間で共有していきます。◎児童・生徒の学習に対する関心・意欲を一層高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいきます。◎学校教育全体で児童・生徒の自己肯定感・自己有用感を高めていけるよう、より一層道徳教育に力を入れていきます。